

令和6年度自己評価結果公表シート

玉川学園幼稚園

1. 本園の教育目標

I. 子どもの心を育てること

心とはその人そのもの、あるいはその人の基本的な感性である。心が育つということは、自分を持つということである。幼稚園では、幼児にふさわしい環境と指導を通して、人間として望ましい感性や価値観を育て、幼いながらも自分自身を築くことで、今後その子が生きていく上での礎としたい。

II. よい仲間社会を育てること

幼稚園教育は集団生活を通して行うものである。子ども一人一人が集団生活のルールをわきまえながらも、自己を素直に表現することができる、幼いながらも自立した仲間社会を育てることで、社会道徳を身につけさせたい。

2. 今年度の重点目標

- I 受け持ったクラスの子どもの成長に全力を尽くす
- II 自然を題材にした表現の保育の充実を図る
- III 週案等の保育計画を継続して作成し、有効に活用する

3. 重点目標の取組状況

項 目	取組状況と評価
受け持ったクラスの子どもの成長に全力を尽くす	<p>① 取組状況</p> <p>教師はすべての子どもに公平に目を向け、かつ平等に愛情を持って接しながら、一人一人のより良い成長のために最善の努力を払うこと。また、あらゆる活動において、子ども一人一人がその持てる力を一杯に発揮できるように導くこと。さらに、同年令の子どもであっても、体躯、性格、発達の種類、家庭環境など一人一人が違う。それらを踏まえた上でそれぞれの子どものことについて理解し、それぞれの事情に応じた配慮をして望ましい成長につなげること。</p> <p>② 保護者アンケートの結果</p> <p>年度末の無記名保護者アンケート（回収率85%）では、①子どもを本園に通わせて「大変良かった（75%）」、「良かった（23%）」となり、②子どもの成長が「大変実感できる（67%）」、「実感できる（32%）」と回答いただいております、ほとんどの保護者が本園の教育に満足していると言える。</p> <p>③教員の自己評価の結果</p> <p>自己評価では、ほとんどの教員が担当したクラスの子どもの成長に満足感を得ており、1年を通した子どもの育ちを実感していると言える。</p>

<p>自然を題材にした表現の保育の充実を図る</p>	<p>① 取組状況 本園では、長年にわたって「自然を題材にした表現の保育」を教育方針として実践している。四季折々の身近な自然や生き物に親しみ、自分が見たこと考えたことを表現することで、子ども一人一人の自己形成を促し、クラスの子ども同士の相互理解につなげて集団社会の成長を図った。毎月の園内研究会では、各々のクラスの保育を見合うことで教員の保育力向上に努めた。また、他園の公開保育や各種の研修会に参加して研鑽した。</p> <p>② 保護者アンケートの結果 本園の教育内容については「満足（72%）」、「概ね満足（23%）」と回答いただいております、教育内容に理解と共感を得ている。</p> <p>③ 教員の自己評価の結果 本園の目指す表現の保育は、子どもに知識等を教えるのではなく、子どもが自ら思ったことや考えたことを表現するように導いている。教師の創意工夫が必要であるが、試行錯誤しつつも保育の充実が図れたとの自己評価になった。</p>
<p>週案等の保育計画を継続して作成し、有効に活用する</p>	<p>① 取組状況 保育計画を立案して保育を進めることは保育現場において当然のことであるので、今年度も保育内容の充実のために幼稚園全体で取り組んだ。各クラス担任の保育計画と実践、評価、および指導を年間を通して継続して保育の充実に向けた。努めた。</p> <p>② 教員の自己評価の結果 概ね有効に活用できたとの評価である。その時々々のクラスの状況に応じて保育のねらいを設定し、着実に子どもが成長できるように地道に取り組んでいる。</p>

4. 学校関係者の評価

玉川学園幼稚園は子どもが伸び伸びとしており雰囲気が良い。子どもが自分で考えて行動できるようになっていて、成長が感じられる。自然と関わる保育を通じて、身近な自然や虫が好きになっているのが良い。コロナ禍の間は行事も物足りなかったが、コロナが明けて元に戻り良かった。特に全園児運動会は迫力があつた。改善点としては、出欠連絡の IT 化、各種手紙のネット配信等の利便性の向上、および両親共働きの家庭が増えているので、様々な行事予定は少しでも早く伝達することである。

5. 財務状況

公認会計士による監査において、当法人の計算書類は適正に表示されているものと認められている。